谷口教授を支援する会ニュース

第５号　2013 年 1 月 7 日

発行　谷口教授を支援する会
〒456-0006
名古屋市熱田区沢下町 9-3-401
Tel：052-883-6969
Fax：052-883-6968
E-mail：n_honda@roren.net

新年明けましておめでとうございます。本年も谷口教授の不当解雇撤回、大学運営と教育の民主化に向けた闘いに力をお貸し下さい。さて昨年末の 12 月 18 日（火)、名古屋大学職員組合によって谷口教授のミニ講演会と「励ますつどい」が開催されました。暮れも押し詰まった寒い日でしたが、同組合の皆さまの温かい企画に大きな力をいただきました。本当にありがとうございました。

谷口教授から感謝の手記をお寄せいただきましたので、以下にご紹介いたします。

名古屋大学職員組合に励まされ　谷口 富士夫

名古屋大学職員組合（以後、名大職組と略）から招待を受け、「名古屋女子大人権侵害事件（訴訟）谷口先生を励ますつどい」を開いていただきました。当日は午後 5 時 40 分から 7 時まで「みみよりカフェ」でのミニ講演の講師としても招待を受け、その終了後に会場を改め、午後 9 時まで「励ますつどい」が催されました。



▲「みみよりカフェ」で講演する谷口教授。約 30 人の方々にご参加いただきました。

「みみよりカフェ」は名大職組が開いている公開学習会の名称です。学内にあるカフェでドリンクを飲みながら講師の話を聞ける場として、組合員のみならず他の教職員や学生などにも開放されたミニ講演会です。私は「チベット仏教における仏性（ぶっしょう）思想と空（くう）思想」という演題で専門分野の内容をかいつまんでお話ししました。越原学園理事会による攻撃が始まって以降、講義あるいは講演のような場で学問的な話をする機会がほとんど奪われていましたので、そのような場をいただいたこと自体、非常にありがたいものでした。また、会場の営業時間の関係であまり質疑応答に時間を費やせませんでしたが、学生とおぼしき若い人からポイントを押さえた質問を受けたのも、良い刺激になりました。

学内の別のレストランで開いていただいた「励ますつどい」は立食パーティー形式でした。私と東海私大教連役員が事件の経過報告等を行い、名大職組役員、名大文学部の教員、日本科学者会議会員といった方々から暖かい励ましのお言葉を頂戴いたしました。

事件の最中には、同僚や学生たちから隔離された場所で様々な「業務命令」を受けていましたが、



事件の情報が広まるにつれて、これまで見ず知らずであった方々からも温かいご支援をいただき、大変感謝しております。今回の「励ますつどい」でいただいた励ましのお言葉のおかげで、まだ始まったばかりの裁判闘争を最後まで闘いぬく勇気と気力を授かったような気がします。

今回の名大職組の「励ますつどい」の関係者の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

仏教研究から組合活動へ

名古屋女子大学教職員組合
副執行委員長　谷口　富士夫

越原学園理事会に対する裁判闘争では色々とご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。私は2007年４月に名古屋女子大学教職員組合の副執行委員長になるまで、学生運動にせよ労働運動にせよ「運動」と名のつくような活動と無縁な生活を送っていました。

私の専門はインド・チベット仏教思想史ですが、実家は薬局を営んでおり、寺の子弟であったわけではありません。浄土宗系の私立高校に通うことになったのがきっかけで読んだ渡辺照宏著『仏教』（岩波新書）があまりに面白く、インド仏教に興味を持ち始めました。２年生の夏休みには、高校が主催した、臨済宗永源寺（滋賀県）での１週間の坐禅会に参加して、ますます仏教に惹かれるようになりました。

大学入学当初は禅に興味があったのですが、結果として私は、インド・チベット仏教思想の歴史的研究を始めることになりました。その研究自体は今でも楽しく、また意義も感じられるのですが、当初自分が志していた実践的な仏教からは遠いところにいるという感覚を絶えず持ち続けていました。ところが今から13年前に、ベトナム出身の禅僧ティク・ナット・ハンが提唱する「行動する仏教（Engaged Buddhism）」のことを知り、強く共感を覚えました。

ところで私は1992年に名古屋女子大学に職を得、それなりに満足した教育研究活動を送っていました。しかし2005年に理事長の娘婿が副理事長職についてから、職場が明らかにおかしくなり始めました。課長級の職員が突然降格されて、代わりに任期付き雇用の新任職員が課長職になったり、年度途中に教務課職員が配転になったり、というように、従来からは考えられないような恣意的な人事が推し進められるようになりました。また、07年に中高法人を吸収合併するのを機会に法人名を「名古屋女子大学」から「越原学園」に変更し、理事長と副理事長が学長と副学長を兼任するなど、ますます越原家の専断的傾向が明らかになってきました。そのため学内で組合を立ち上げようという複数の動きが出てきました。それが一本化され、無事に07年4月16日に名古屋女子大学教職員組合が結成され、私も副執行委員長に就くことになりました。

その段階では、組合ができれば理事会もおとなしくなり、風通しの良い職場に変わるものと楽観的に思っていました。しかし理事会の組合嫌悪の姿勢は不当労働行為を繰り返すばかりでした。そして2011年4月ついに執行委員長の解雇が起こり、その２カ月後に私に対する不当業務命令攻撃が始まりました。攻撃が始まって間もない７月下旬から８月上旬にかけては先が全く見えず、正直なところ、自主退職も考えたほどでした。しかし幸か不幸か自転車事故で１カ月の入院を余儀なくされているうちに、病室から書いていたブログの読者が増え、無言の支援を受けていることを感じるようになりました。職場復帰して理事会からの攻撃がいっそう激化してからも、その「支援」によって耐えられるようになりました。また、自分の活動をティク・ナット・ハンの言う「行動する仏教」の一環として位置づけられるのではないかという見通しができ、仏教における瞑想法を少しばかり日常生活の中に取り入れるようになって、ささやかながら研究と実践の一致ができるようになりました。

いまや東海私大教連をはじめ多くの方々から、目に見える支援をいただき、越原学園理事会との闘争に腹をくくることができました。今後ともご指導、ご鞭撻のうえ、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。